

2007 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">フィールド・リサーチ B</p>	<p>対象学科・学年</p> <p>文学部コミ 2 回生 人間人社 2 回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">岡島 克樹</p>
<p>授業テーマ</p> <p>定性的調査法の基礎を取得する。</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>図書館で文献を調べる、現場に足を運んで自分の目で観察する、人に話を聞く、アンケートを配って答えてもらう。知りたい疑問の答えに関する情報を集めて、分析するリサーチの方法はさまざまある。この授業では、特に、定性的調査法と呼ばれるものの中から参与観察法とそこから得られた情報を整理する KJ 法を体験的に学ぶ。この授業は前期のフィールド・リサーチ法の授業を受講した者の履修が望ましい。</p>		
<p>評価方法</p> <p>個人課題（レポート、パワーポイント発表）をもとに判断する。</p>		
<p>テキスト</p> <p>適宜コピーして配布する。</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>参考書</p> <p>適宜指示する。</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <p><スケジュール></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 調査報告書の基本： 調査結果と考察・感想は分ける！（シノプシス作成作業、前期の復習もかねて） 2. 前回の続き 3. 参与観察の方法 4. 前回の続き 5. 個人課題作業日 6. 個人課題作業日 7. 個人課題作業日 8. 個人課題作業日 9. 個人課題作業日 10. 調査結果の発表（パワーポイント） 11. 調査結果の発表（パワーポイント） 12. 調査結果の発表（パワーポイント） 13. 調査結果の発表（パワーポイント） 14. 調査結果の発表（パワーポイント） 15. まとめ <p>なお、「フィールド・リサーチA」にも書いたように、本講は、1 回生時の「人間と社会B」において学んだ「現象の理解と諸原因の探求」というテーマを深める位置づけにあり、受講生諸君は、本講においても社会的な関心の幅を広めるとともに、社会問題の解決方法を探る個人課題を通じて、「複雑で多量の情報を整理する能力」を高めることができる。</p> <p>また、4 回生時には卒論に取り組むことになるが、文章作成能力はすぐにつくものではない。スポーツと同じで、2-3 キロメートル走を何度も走りこみ基礎体力をつけてはじめて 10 キロメートル走を満足のいく形で走りきれるように、2 回生時から 2-3 ページの報告書を自分の言葉で何度も書くことによって、卒論（1 ページ 1200 字とすると 10 ページ程度がそれ以上に相当する）でも満足のいく、達成感ある走りができる。文章作成能力を高めたい諸君は是非受講するようにしてください。</p>		